

4～6月期の業況は改善
【特別調査】 - 「中小企業の事業継続について」

【調査要領】
 調査時点：2021年6月上旬
 調査対象：西兵庫信用金庫お取引先103社
 調査方法：調査票を用いた面接による聞き取り調査
 調査企業数：103社
 調査票回収：103社
 調査対象地域：西播磨地域（宍粟市、相生市、赤穂市、たつの市、揖保郡、赤穂郡、佐用郡）

分析方法：D.I. (デフュージョン・インデックス) による分析
 景気の方角感を判断するために使う指数。各質問項目で、「良い」と答えた割合から、「悪い」と答えた割合を引いて算出する。

回答企業の業種別内訳

業種	回答企業数
製造業	32
卸売業	11
小売業	17
サービス業	19
建設業	19
不動産業	5
総計	103

（例）

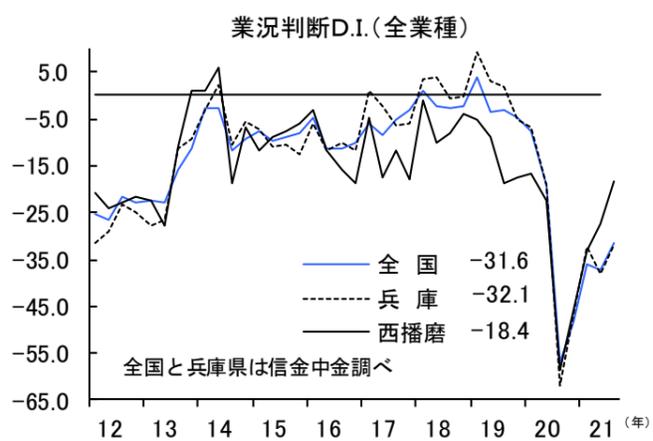
	良い	普通	悪い	合計
回答数	10	5	5	20

(良い)50% - (悪い)25% = (D.I.)25

全業種総合

～景況感は改善～
 21年4～6月期（今期）の業況判断 D.I.は△18.4 と、前期比 8.8 ポイント改善した。前期に比べ業況が「良い」と回答した企業が 2.9 ポイント低下したものの、「悪い」と回答した企業が 11.6 ポイント低下したことによる。前年同期比の売上額判断 D.I.は△2.9 と前期比 18.5 ポイント上昇し、同収益判断 D.I.は△3.9 と前期比 22.3 ポイント上昇した。

業種別の業況判断 D.I.は、製造業、卸売業、サービス業、不動産業が改善した一方、小売業、建設業は低下した。
 全国の業況判断 D.I.は△31.6 と前期比 5.5 ポイント上昇、兵庫県では△32.1 と同 6.0 ポイント上昇した。

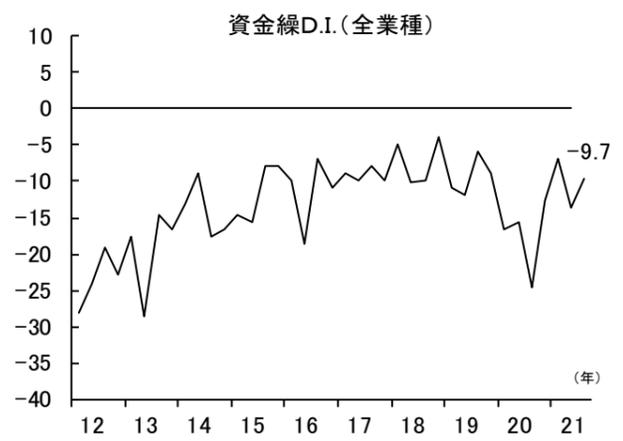


過去4四半期の業況判断 D.I.を平均して判定

【業種別天気図】

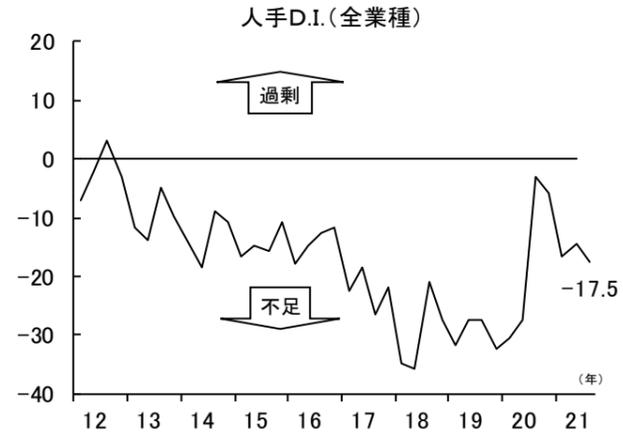
時期	2021年 1～3月	2021年 4～6月	2021年 7～9月 (見通し)
総合	☔	☔	☔
製造業	☔	☔	☔
卸売業	☔	☔	☔
小売業	☔	☔	☔
サービス業	☔	☔	☔
建設業	☔	☔	☔
不動産業	☔	☔	☔

天気図の凡例：快晴、晴れ、晴れ時々曇、うす曇、曇、雨、大雨。好調 ← → 低調



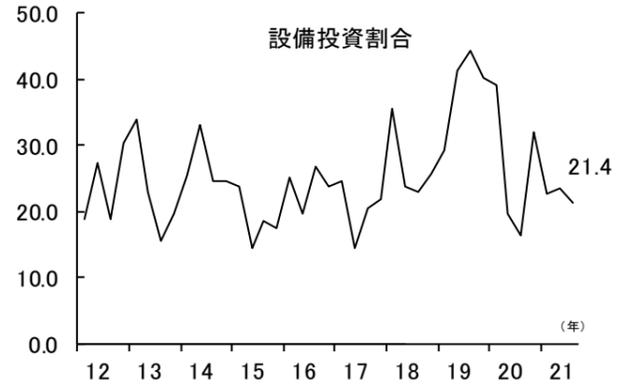
～販売価格判断 D.I.は上昇・仕入価格判断 D.I.は上昇～
 販売価格判断 D.I.は 4.9 と前期比 2.0 ポイント上昇した。仕入価格判断 D.I.は 25.2 と前期比 6.8 ポイント上昇した。

～資金繰り判断 D.I.は上昇～
 資金繰り判断 D.I.は△9.7 と、前期比 3.9 ポイント上昇した。業種別では、製造業が前期比 18.8 ポイント、卸売業が同 9.1 ポイント、建設業が同 10.5 ポイント改善した。一方、小売業が前期比 5.9 ポイント、サービス業が同 21.1 ポイント低下し、不動産業は横ばいとなった。



～人手過不足判断 D.I.は、人手「不足」感が強まった～
 雇用面では、人手過不足判断 D.I.が△17.5（マイナスは人手「不足」超）と前期比 3.0 ポイント低下した。残業時間判断 D.I.は△7.8 と、前期比 1.9 ポイント上昇した。残業時間が「増加」したとする企業の割合が上昇し、「減少」したとする企業の割合が低下したことによる。

～設備投資実施企業割合は低下～
 設備投資実施企業割合（不動産業を除く企業のうち設備投資を実施した企業の割合）は 21.4%と、前期比 2.1 ポイント低下した。



～来期の景況感は今期実績比低下の見通し～
 来期の予想業況判断 D.I.は△26.2 と今期実績比 7.8 ポイント低下する見通しとなっている。業種別の予想業況判断 D.I.は、建設業が今期実績比 10.5 ポイント改善する見通し。一方、製造業が今期実績比 18.7 ポイント、卸売業が同 36.4 ポイント低下する見通しであり、また、小売業、サービス業、不動産業が今期実績比横ばいの見通しである。

経営上の問題点

順位	全業種	割合
1位	売上の停滞・減少	38%
2位	人手不足	27%
3位	利幅の縮小	19%
3位	原材料高	19%
5位	同業者間の競争の激化	18%

＜経営上の問題点＞
 経営上の問題点としては、「売上の停滞・減少」が 38%、「人手不足」が 27%と多く、その他では「利幅の縮小」・「原材料高」が 19%、「同業者間の競争の激化」が 18%となっている。

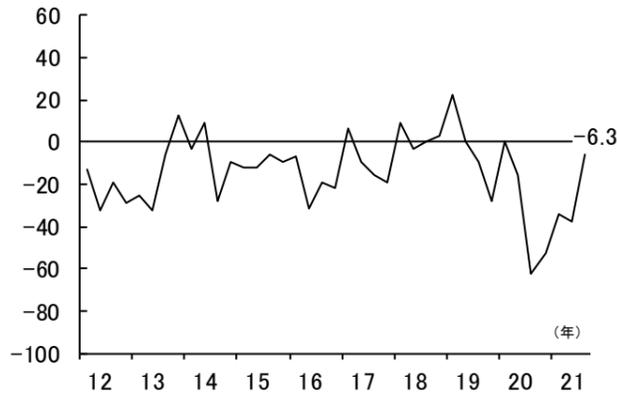
＜当面の重点経営施策＞
 当面の重点経営施策としては、「経費を節減する」が 36%、「販路を広げる」・「人材を確保する」が 30%と多く、その他では「情報力を強化する」が 18%、「教育訓練を強化する」・「宣伝・広告を強化する」が 12%となっている。

当面の重点経営施策

順位	全業種	割合
1位	経費を節減する	36%
2位	販路を広げる	30%
2位	人材を確保する	30%
4位	情報力を強化する	18%
5位	教育訓練を強化する	12%
5位	宣伝・広告を強化する	12%

製造業

業況判断D.I.(製造業)



～製造業の景況感は改善～

今期の業況判断 D.I.は△6.3 と、前期比 31.2 ポイント上昇した。

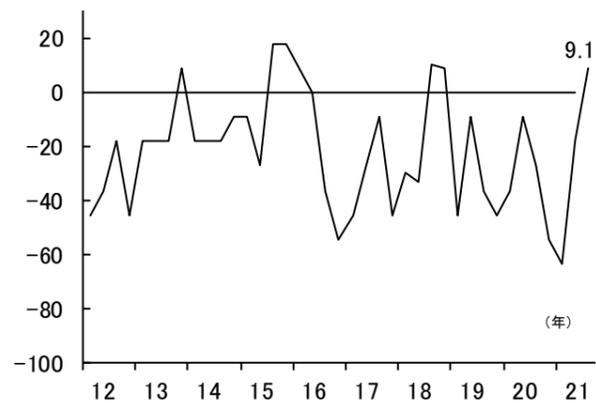
前年同期比売上額判断 D.I.は 12.5 と前期比 43.8 ポイント上昇した。同収益判断 D.I.は 9.4 と前期比 37.5 ポイント上昇した。

設備投資実施企業割合は 31.3%と、前期比 6.2 ポイント低下した。資金繰り判断 D.I.は 0.0 と、前期比 18.8 ポイント改善した。人手過不足判断 D.I.は、△21.9 と前期比 15.6 ポイント低下した。

来期の予想業況判断 D.I.は△25.0 と今期実績比 18.7 ポイントの低下を見込んでいる。

卸売業

業況判断D.I.(卸売業)



～卸売業の景況感は改善～

今期の業況判断 D.I.は 9.1 と、前期比 27.3 ポイント改善した。

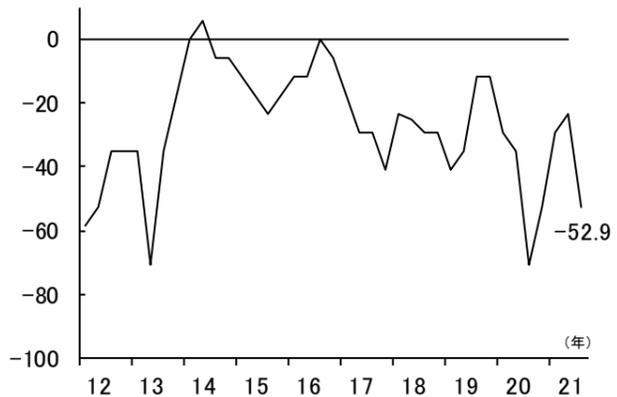
前年同期比売上額判断 D.I.は 18.2 と前期比 27.3 ポイント上昇した。また、同収益判断 D.I.も 18.2 と前期比 63.7 ポイント上昇した。

資金繰り判断 D.I.は 9.1 と、前期比 9.1 ポイント上昇した。人手過不足判断 D.I.は△9.1 (前期△9.1) と人手不足感に変化は無かった。

来期の予想業況判断 D.I.は△27.3 と、今期実績比 36.4 ポイントの低下を見込んでいる。

小売業

業況判断D.I.(小売業)



～小売業の景況感は低下～

今期の業況判断 D.I.は△52.9 と前期比 29.4 ポイント低下した。

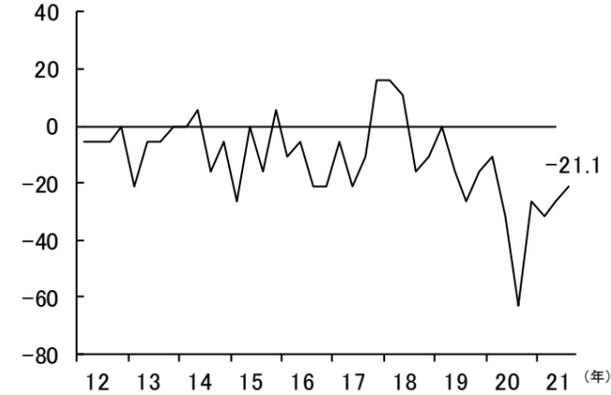
前年同期比売上額判断 D.I.は△23.5 と前期比 23.6 ポイント改善した。同収益判断 D.I.は△17.6 と前期比 29.5 ポイント改善した。

資金繰り判断 D.I.は△29.4 と、前期比 5.9 ポイント低下した。人手過不足判断 D.I.は 0.0 (前期△5.9) と人手不足感は弱まった。

来期の予想業況判断 D.I.は△52.9 と、今期実績比横ばいを見込んでいる。

サービス業

業況判断D.I.(サービス業)



～サービス業の景況感は改善～

今期の業況判断 D.I.は△21.1 と、前期比 5.2 ポイント改善した。

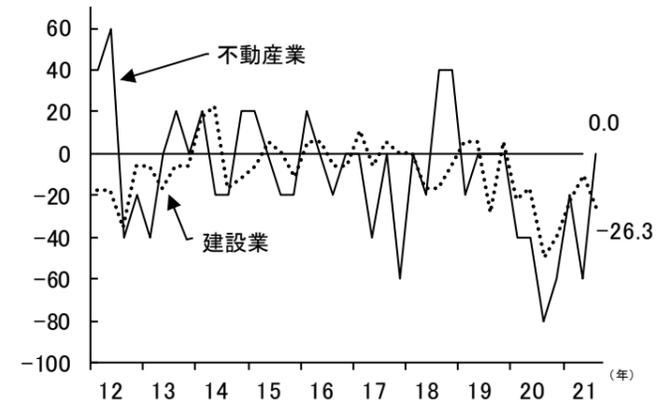
前年同期比売上額判断 D.I.は 0.0 と前期比 5.3 ポイント上昇した。同収益判断 D.I.は 0.0 と前期比 10.5 ポイント上昇した。

資金繰り判断 D.I.は△15.8 と前期比 21.1 ポイント低下した。人手過不足判断 D.I.は△15.8 (前期△15.8) と人手不足感に変化は無かった。残業時間判断 D.I.は△5.3 と、前期比 10.5 ポイント改善した。

来期の予想業況判断 D.I.は△21.1 と、今期実績比横ばいを見込んでいる。

建設業、不動産業

業況判断D.I.(建設・不動産業)



～建設業の景況感は低下～

今期の建設業の業況判断 D.I.は△26.3 と前期比 15.8 ポイント低下した。前年同期比売上額判断 D.I.は△21.1 と前期比 21.1 ポイント低下した。同収益判断 D.I.は△31.6 と前期比 26.3 ポイント低下した。受注残判断 D.I.は△21.1 と、前期比 15.8 ポイント低下した。

資金繰り判断 D.I.は△15.8 と、前期比 10.5 ポイント改善した。人手過不足判断 D.I.は、△31.6(前期△31.6) と、人手不足感に変化はなかった。来期の予想業況判断 D.I.は△15.8 と、今期実績比 10.5 ポイント改善を見込んでいる。

～不動産業の景況感は改善～

不動産業については、調査対象先の少なさを考慮する必要があるが、今期の業況判断 D.I.は 0.0 と前期比 60.0 ポイント上昇した。前年同期比売上額判断 D.I.は△20.0 と前期比 20.0 ポイント上昇した。同収益判断 D.I.は 0.0 と前期比 40.0 ポイント上昇した。資金繰り判断 D.I.は 0.0 と前期比横ばいとなった。在庫過不足判断 D.I.は 0.0 と、前期比横ばいとなった。来期の予想業況判断 D.I.も 0.0 と、今期実績比横ばいを見込んでいる。

調査員のコメント

製造業 : ウッドショックによる木材の値上がりが続いており将来的に在庫不足も懸念される。コロナ後の経済回復を見据えて生産体制を見直したい意向もあるが先行きに不安がある。
卸売業 : 素麺の販売は夏の気候に左右される部分が大きく、今年の夏の天候を心配している。
小売業 : コロナの影響により学校の行事等が中止となり、副教材販売の売上が減少している。

サービス業 : 半導体の不足により新車の納期が延期となっているため、売上や顧客に対して影響が出ている。
建設業 : ウッドショックによる影響が強く木材価格は 1 割程度上昇。普段より多く木材を仕入れ 4 棟分の木材を確保したが、その分資金繰りを圧迫している。